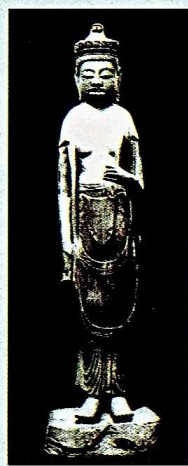


もっと知りたい  
ふるさと

⑦

智識寺「お観音さん」



「まちの話題四号欄で紹介した上山田地区「お観音さんのお祭り」について、「もっと知りたい」という声におこたえます。

智識寺十一面観音は通称「お観音さん」と呼ばれています。

このお観音さんは、開運出世観音として崇敬篤く信者も多い。境内の石の垣根からは、東京を中心とした関東方面の信者の多いこともうかがえる。恒例の春のお祭りは、桜花爛漫の四月十七日、開運出世を願う善男善女の参拝が続く。夏には紫陽花が朝露に輝き、錦繡に彩られる秋枯れ葉にうずもれ静寂の中で春を待つ杜。四季折々の豊かな趣と風情は、参詣者の心を捉えて離さない。

このお観音さんは、上山田の八坂地籍（釜屋）（主要地方道大町麻績インター千曲線沿い）の交通の便がよいところに鎮座されている。

通称四十八曲峠の上り口にある、こんもりとした杜の入り口には、大きな「わらじ」が飾られた仁王門が道路に面して見られる。仁王門（阿像卍像）をく

ぐると真正面に大御堂が見える。

順を追ってご案内をします。

仁王門をくぐり右側に事務所、やや進むと左側に小さなお堂がある。右側一段下がったところに庫裡がある。庫裡の周りには、紫陽花が植えられ、「智識の杜公園」として親しまれている。また、納涼には最適なところでもあります。

智識寺は藤原前期、即ち一千年の昔、ソネ（曾根・僧根）堂：冠着山の東の麓に開山と推定されている。

その後、この智識寺は古屋に遷した。ここからさらに、中世の山田氏が、現在地（釜屋）に遷し、氏寺とした。

古仏十一面観世音立像は、総丈壹丈六寸、一木彫成である。全像が甚だしく細長く撫肩なところが、

貞観末期から藤原初期の僅かな時期に見られる特色である。衣紋の襷が強調されている。

現在の大御堂は、桁行三間、梁間四間、単層屋根、寄棟造、茅葺、建坪二十二坪三合八勺である。

ちなみに、大御堂と十一面観世音立像は、国指定重要文化財に指定されている。いつ訪れてもいいお寺のひとつである。

参考文献 上山田町史  
文責 鎌原 賢司

